

令和6年度第1回 工賃向上研修会

事例紹介（福祉事業所①）

畑楽屋

管理者 千葉修 様

1 事業所紹介

事業所名・所在地	畑楽屋・つくば市島名2191（諏訪C14街区8）
設置者名	カルチベイジ合同会社
R6利用者数（定員数）	20名
これまでの 工賃月額実績	R3年度：20,576円 R4年度：26,094円 R5年度：35,091円

主な作業内容・作業環境等

種類	内容	作業場所	作業場所に発注元の 従業員等がいるか
農福連携	農作業 販売	終日施設外	いる
花壇等の管理	花苗植え 日常管理	一部施設外	いない (お客様などはいる)
軽作業	シール貼り 部品組立	施設内	いない

2 農福連携に取り組みはじめたきっかけ

はじめたきっかけ

人手に困っている農業者がいる
仕事や活動の機会を得られなくて困っている障害者がいる
この両者を結びつけよう

つないだ責任

「命賭けてっから」という農業者の言葉
いきいきとした表情、自分のやるべき仕事という障害者
お互いに、なくてはならない存在となれるようやらなくてはいけない

今の想い

障害者からは「なくなっては困る」
農業者からは「来てもらわなくては困る」
そこにニーズがある限り、続ける

3 - 1 作業内容① (例：タマネギ)

① 苗取り⇒② 定植(機械)⇒③ 株元の草取り⇒
④ マルチはがし⇒⑤ 収穫(機械)



3-2 作業内容① (例: タマネギ)

⑥運搬(機械)⇒⑦調整選別(機械)⇒⑧ネット入れ



3-3 その他の品目

その他の品目（作業経験のある品目）

- ◎...ニンジン、サツマイモ、ジャガイモ、トウモロコシ
- △...ベビーリーフ、ダイコン、レタス、カブ



農作業をする日のスケジュール

（夏シフト期間を除く）

時間	内容等	備考
8:30	事業所朝礼、出発	事業所の車
9:00	農園朝礼、作業開始	手袋、靴など
10:15	休憩	農業者と一緒に
10:30	作業再開	
12:00	昼休み	弁当は現地に配達
13:00	作業再開	
14:00	休憩	
14:15	作業再開	
15:00	農園終礼、作業終了	
15:30	帰所、事業所終礼	事業所の車

3-4 工夫点など

工夫していること

障害者にむけて

できるだけわかりやすく
個々のできることをよく知る
全体として柔軟に組み合わせる

農業者にむけて

中途半端で終わらせない
できないことを障害者のせいにならない
農業者がご自分の業務ができるよう

気を付けていること・たいへんなこと

障害者との関係性

いつも強い立場の人
指示指導をする人

自分のことをわかってくれる人
そばにいて一緒にやる人

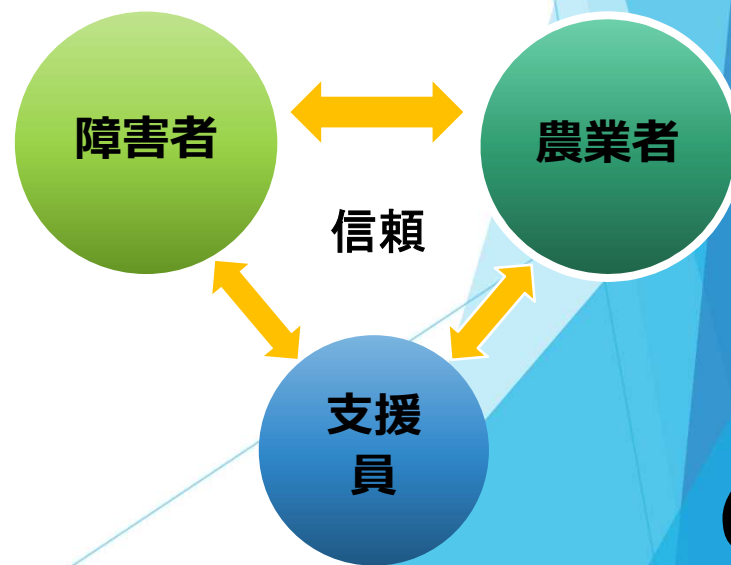
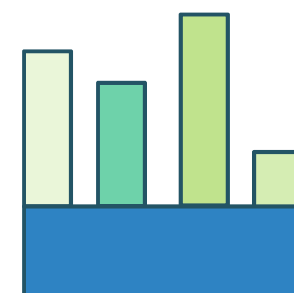
農業者との関係性

来てもらっている
福祉事業所の支援員

うちの仕事をわかってる人
任せたい人

固定化の支援

柔軟な
支援



4 取組の効果

障害者の変化

Aさん 「ここが自分の居場所。ずっといたい」

Bさん 強みの発見 ⇒ 体力がある。作業にこつこつ取り組める。



工賃について

受注元から信頼され認められる = 受注代金はあがる



農業者や企業の信頼をどうやって得ていくのか
どうすると仕事をしたいと思ってもらえるか

就労系スタッフとして腕の見せ所のひとつ

目先の単価アップだけを目指さない
息の長い取引のほうがいい（お互いに良い取引）
地域（環境）にどうはたらきかけていくかという視点

氏名	■■■■様
期間	令和6年■月分
時給	200 円
勤怠	出勤日数 23 日 実働時間 110.25 時間
支給	基本給 22,050 円 農園手当 ■■■■ 円 役割手当 ■■■■ 円 特別手当 ■■■■ 円
工賃支給額	103,000 円
控除	昼食 4,200 円 調整分 0 円 利用料 円
差引支給額	99,000 円

畑楽屋

5 今後の取組

農福連携の未来

障害者

障害者人口は増。実際のニーズもある。環境に合う方もいる。

農業者

農業者は減。増える耕作放棄地。人手不足でニーズはある。

支援員

障害者と地域の双方にかかわりたい人。探すのが一番難しい。

ゆっくりと関係を育んでいく

障害者も農業者も支援員もマッチング。好きじゃないのにやっても仕方ない。

ちゃんと好きな人が集まって、得意なことをいかして、楽しみながらやる。

だから時間はかかってもいい。むしろ時間をかけて丁寧に関係を育んでいく。

6 参加者へのメッセージ

農福連携は、障害者（人）と農業者（環境）の双方にはたらきかけることができるソーシャルワーク

だから、おもしろい

ご清聴ありがとうございました

